
モルゴーア・クアルテット Morgaua Quartet

MORGAUA QUARTET（モルゴーア・クアルテット）は、ショスタコーヴィチの残した15曲の弦楽四重奏曲を演奏するため、1992年秋に結成された弦楽四重奏団。翌'93年6月に第1回定期演奏会を開始。

2001年1月の第14回定期演奏会でショスタコーヴィチの残した弦楽四重奏曲全15曲を完奏。

同年4月、第2ヴァイオリンを青木高志から戸澤哲夫に交代。

'01年11月からは「トリトン・アーツ・ネットワーク」との共催公演で《モルゴーア・クアルテット ショスタコーヴィチ・シリーズ》を5回に亘って行ない、'03年12月に2度目の完奏。

'03年6月の第19回定期演奏会で、ベートーヴェンの後期弦楽四重奏曲を完奏。

'05年4月、マイスター・ミュージックから《ボロディン：弦楽四重奏曲集》を発売。

'06年6月、第25回定期演奏会で、バルトークの弦楽四重奏曲全6曲を完奏。同年9月には「トリトン・アーツ・ネットワーク」との共催でショスタコーヴィチ生誕100周年記念弦楽四重奏曲全曲演奏会を行ない、3日間で全15曲を3度目の完奏。

'08年11月、東京フィルハーモニー交響楽団 第761回サントリー定期シリーズに、マルティヌー作曲「弦楽四重奏と管弦楽のための協奏曲」のソリストとして招聘され、弦楽四重奏団としての高いクオリティを評価された。

'09年1月の第30回定期演奏会で、ベートーヴェン中期弦楽四重奏曲を完奏。

'12年6月、結成20周年記念ガラコンサート「20th Anniversary Morgaua Quartet GALA」を福島、東京、大阪で開催。'12年6月と'14年5月、そして'17年3月に日本コロムビアからリリースした、荒井英治編曲のプログレッシブ・ロック・アルバム《21世紀の精神正常者たち》《原始心母の危機》《トリビュートロジー》により、ボーダーレスな弦楽四重奏団としての高い評価を受ける。

ショスタコーヴィチ没後40年（2015）から生誕110年（2016）をつなぐ「ショスタコーヴィチ弦楽四重奏曲全15曲演奏会」を'15年大晦日から'16年元旦にかけて「横浜みなとみらいホール小ホール」で開催。瞠目のプログラムで多くの聴衆を集め、4度目の完奏。

'17年6月、結成25周年記念コンサートを福島、東京（vol.1）で、'18年1月にvol.2を東京で開催。

'98年1月、第10回「村松賞」、'11年5月、2010年度「アリオン賞」、'16年9月、第14回「佐川吉男音楽賞 奨励賞」、'17年9月「第47回JXTG音楽賞 洋楽部門本賞」、'18年6月「第28回みんゆう県民大賞 芸術文化賞」を受賞。

モルゴーア・クアルテットの斬新なプログラムと曲の核心に迫る演奏は、常に話題と熱狂を呼んでいる。

モルゴーアは、エスペラント語（morgaŭa = 明日の）に原意を持つ。

- 第1ヴァイオリン：荒井 英治（元東京フィルハーモニー交響楽団ソロ・コンサートマスター）
- 第2ヴァイオリン：戸澤 哲夫（東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団コンサートマスター）
- ヴィオラ：小野富士（元NHK交響楽団次席ヴィオラ奏者）
- チェロ：藤森 亮一（NHK交響楽団首席チェロ奏者）

（令和4年8月現在・転載禁止）